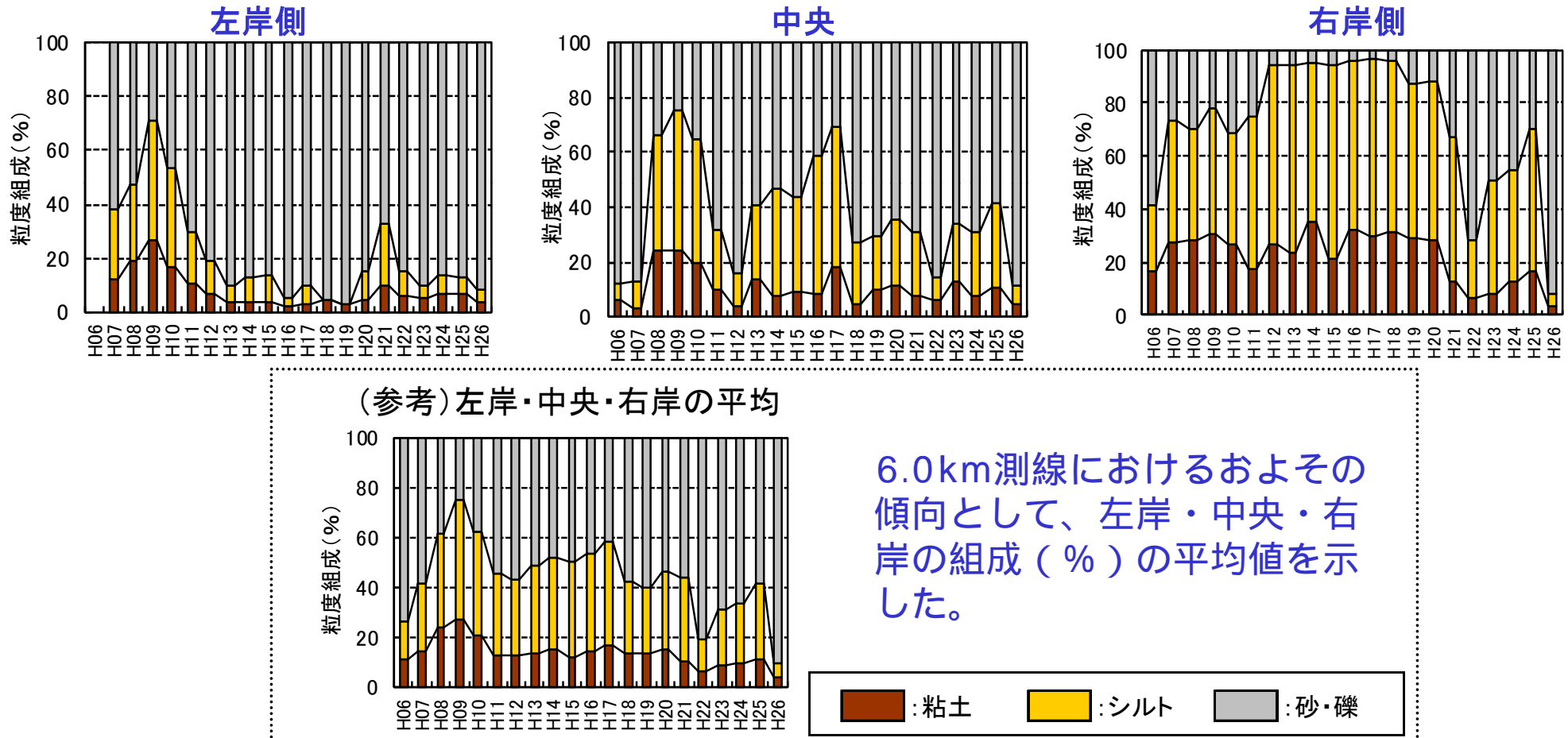


# 底質の経年変化

## ■ 粒度組成 (堰上流側 6.0km測線)

- 堰下流側 (5.0km) と同様に、粒度組成は経年的に変動が見られ、河口堰運用後に一方的に細粒分(粘土、シルト)が増加している傾向は見られない。
- 平均的には砂・礫の割合が高くなる傾向が見られる。



6.0km測線におけるおよその傾向として、左岸・中央・右岸の組成 (%) の平均値を示した。

### 【粒径区分】

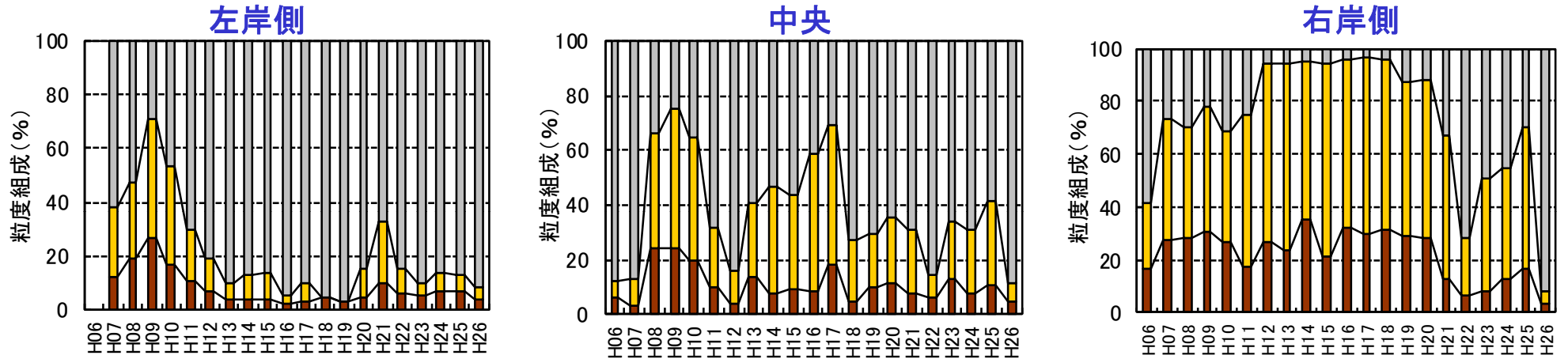
底質は、粒子の大きさにより以下の通り区分される。

※粘土(粒径0.005mm未満)、シルト(粒径0.005~0.075mm)、砂(粒径0.075~2.00mm)、礫(粒径2.00mm~75.0mm)

# 参考資料(底質の経年変化および底質調査(H26.8)写真)

## ■ 粒度組成(堰上流側 6.0km測線)

- 堰下流側(5.0km)と同様に、粒度組成は経年的に変動が見られ、河口堰運用後に一方的に細粒分(粘土、シルト)が増加している傾向は見られない。
- 平均的には砂・礫の割合が高くなる傾向が見られる。



	6.0km左岸	6.0km流心	6.0km右岸
平成26年度8月調査			